KODAK Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

請求
ル 4
4877
5

京都巡礼六日程

愛宕

高雄　付槙尾栂尾

清滝

小倉山　付二尊院

嵯峨　付唐沢口

天龍寺

野乃宮

大井川

嵐山

法輪寺

松尾

梅の宮

出雲　付葛城

ル4
4877
5

京童巻六

あくこ

愛宕山紀日の峯。將軍地蔵ちかへ。百濟國昌雄乃雲ゐ。敏達天皇ナニヤ。ゆみ。ど日雄ハ曼よして。勇ありまとさ。ゝ。先。ゝ。とよりれ。百濟ゑ。り。物仗。して日ゝ雄と。先。ゝ。けるに。百濟を。ゝ。ゝ。そ。ゝ。ゝ。ゝ

え行ふ。わまこの中ゝとりづまと雑
ゝわるまあるに。ゝよとゝてゝれ神人ありと
てゝ毛あるもゝとあゝ。そねたる日ゝ雑の法華
にあゝせあゝ。ゝあゝわりゝ。又武乃浦ゝ大寛
平に。後乃紀ゝ志山ゝ。けゝんと。湯殿の奥
ゝ。ゝ毛ゝ。とゝふゝりゝれを同りゝて。ゝ湯
にゝゝまゝゝに。ゝ。ゝゝりゝ。ゝゝ。
ま車。神乃ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
のゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
のゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ゝゝわりて。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
商と。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
人ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
の人。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
の。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

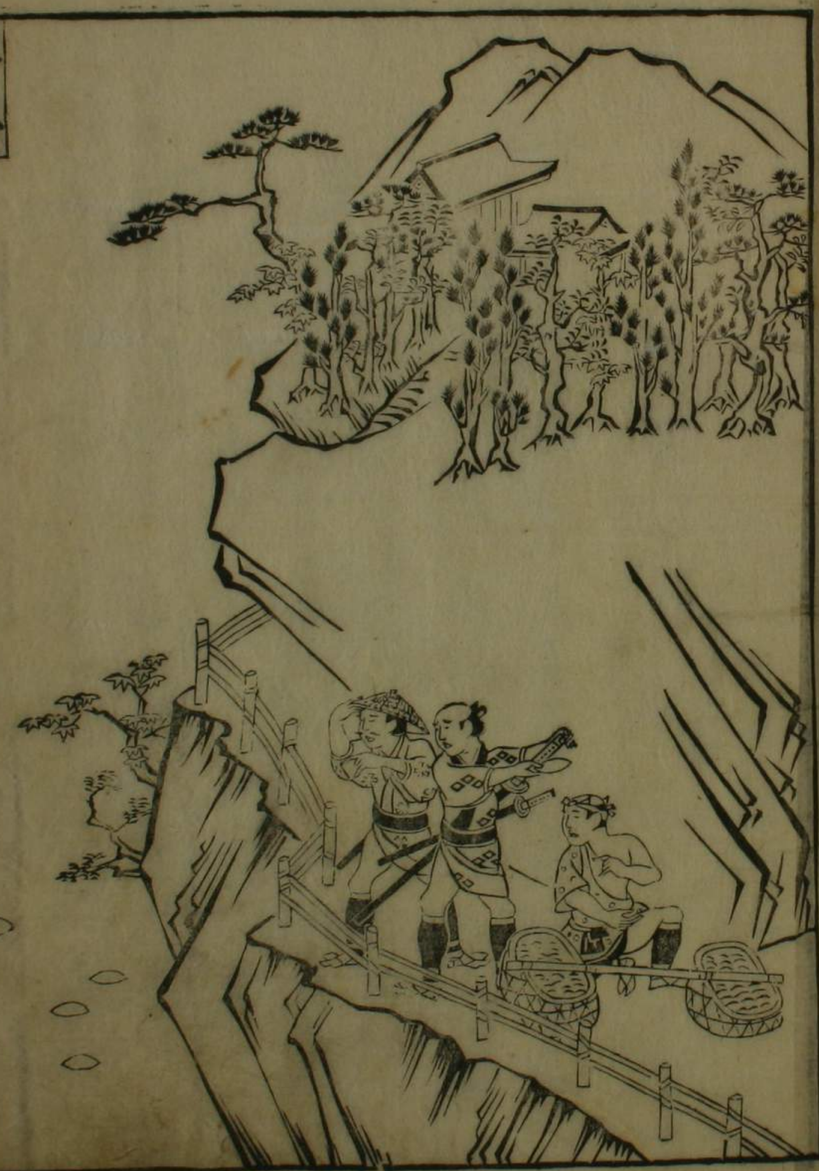
上総の朝臣常門國の司にまかりてよりあり。橘氏の
紀伊國に仏をたてまつり寺をつくりけるとうけ。西の方のくにせん
入唐ありて。西朝のくちぞ雅のうしろによりてぞ
こゝもあらんずるなり。いつの時なりそや。三海
澤屋の后をとりて。ひぢりのゆをもりに
たゝせめに貞觀二年二月うえをりそこに
十一そのまゝらん大てんぐゝあるすかゝら
あゝこ山の大師場こうれや
もろともにあれとおりへ天狗ら
鼻ゝもかゝるにゝまりあり

さ山はゝゝをゆゝりゆゝ雅をのゝたまゝて
いつもゝのありがゝさゝまゝゝうゝれゝうゝたゝんや
ひゝおゝりゝし灌や花よ勝軍

まくいかわけの清水あり
らをあひてぞんじのやうとてめ神樣る
と名づけられしあり。そばりんぐよりはしよ
入さいそうわりけり。又かんくけあぐるは法華法
といふものありつゝ。ハ月乃ゆうでぐどゝ。三月九
一日りう女人をまいりあり。お祭のは非やらん
寂しきそのおもかげ。おれ化廣よたくずと僧あまくゝ
海さのおもかげ。おれ化廣よたくずと僧あまくゝ
いさうきくゝどゝ。そこ誘よあやうれる耳くゝ
くゝ。がまこれよとくゝどゝ山はの紅色

ありがとうのお礼申上(ふりかみ)ませられしちかうと
人波天乃(とてん)ぐもこのうしろ(のぞ)にて三日大明神(たいみやうじん)ぞ
ゆんさう弱たまひしこゝ茅(ちや)はとうのたの名菊(めいおん)
あれハ

たまりしとうのおの茅ハとぐれう
これやうそこ地ちうん



清滝

清滝うりやもて
井。豆ふ乃ふすとそうとて。清滝うりやもて
しもあるひつぐけ作ら

清滝今まつ上

氷のもの乃ものあるいんこして

清滝今まつ上

清滝川うりまんそく。はるばる珍敬
ふうつきしたうねのこ書あるめうり

清滝川乃ものらは。西行法師
鳴らんて天うりてきい清ふれの
御ふうい魚もれうしそもれ

小倉山

さしもしらじのくらのやまのもみぢ葉のこころのこころ時雨

俊成卿

小倉山ふもとのもみぢ葉のこころ

と一首ひのうちゆきまさるの歌

古今集

夕月夜さすやをかべのくまつ葉

高砂のうらのくまつ葉

中納言定家卿

百人の内とる色紙よりかの

たうしとて宮ばらとそをたくさんひてのち一紙

乃歌とあり。ぜんに百人一首と号きはべ

志のうれんものといあり。ふとうふ

新勅撰のれそふ書てうつさ　宮部

二号伝ハ法橋とんの乃浦

浦新とうつ

うつくしと浦新れうこにうつくも

ひとしきぬれいあり引の山

もまた法ハ法橋よあひをうれしうかの品

びやうしぶぐわうぐあしよとつのすけ思ひ

やうしにゆりひうくまぶりとかて不更

ものえいつるをかうくもおあ野の宮ま

いつまう秋うりありてうつさ

とゝのへて所さぶらふ家居にけるふゝ引き
ぢをとゝ三人の居よりはるゝとゝひてすゝゆひ
きりぶくろへ三人の居たるこゝひすまし居る
今こゝ人の家にてこちらくしてある也
極てゝの髪をとゝりて入てゝ
ゝ澤口入乃横笛よりこゝりれゝまおすひゝく
横笛ゝ乃澤口よりこゝのひ引
かゝふゝりうにぐうの乃むゝもたるひゝけぶ
りかゝれゝを仲國そのれまうゝてゝる
ゝしゝゝゝゝれまゝ

八

ゝる乃琴ハこゝぐうゝ澤瀧乃奥
かれこゝひゝくれいゝまゝ乃遍照乃
ゝとゝたちゝきゝ人よゝゝゝゝくし
き世命もゝりたゝふゝまゝしぶさゝ殺ゝれば
ゝれゝゝ人ゝとゝれ乃くゝりめゝゝゝゝゝゝ
ゝりぶゝあやまゝりとゝのさゝむき人よゝゝゝ

九

釋迦堂

ちくはくの天皇のつとめありしに、齋法師
へ度ありてびさるのりまつりごとせん
ぞんの仏像をつくりぎてこれをそんと
とげ。堂をたてたまへるとあり。たゆ
源ちとくらづけ。そる君とあんちをあり。二月十
九日の身拭う

鎌倉やくるの釈迦の身拭

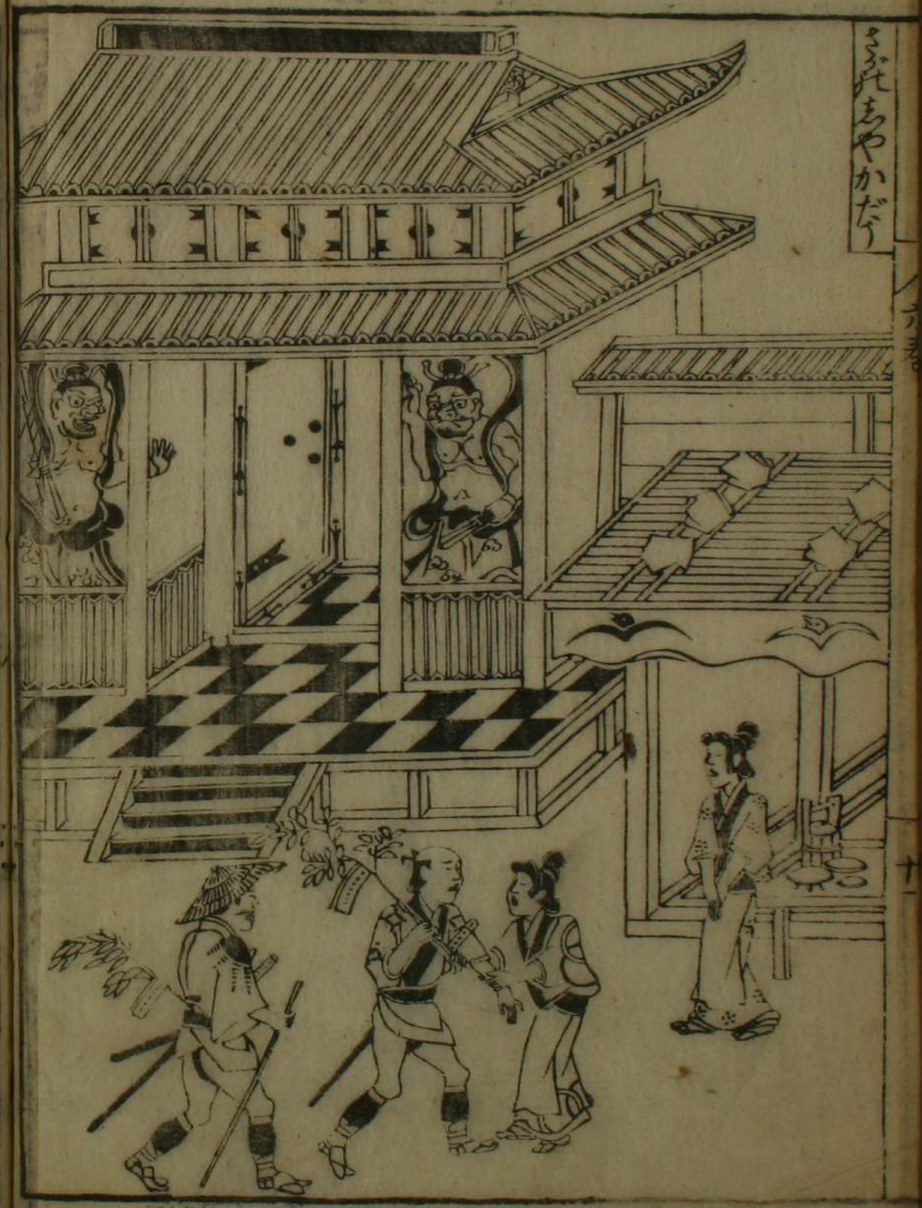
このあらふ度ごとに、ふりけうとれ月の
あるりぶまれむろのあまもふ
年どいぶくうてうりぶ

あまたあるべしとぞ
ひまづ廣澤の月をとらんとて
のぼりて出る月のかつらをとらんとぞ
ぐれ行くなり

任人とあるは山里の秋はいと
月のひかりもさびしさ花の
いめ〳〵の人にみさきにけりて
月のこをゆるひろ澤の池
廣澤のつけのつゝみ柳
さらしもとらく毎夜澤
又の歌の心のはゝ者の心
ぬ

ほうこくにはいとまなきとの
まをおもひて廣澤にまうでゝ
ぬ心なる人の花園しいなり。
而なれど人よりかそのこゝ
法師なりてありしとき
て。ホさうなりしたそ
惠言僧正のおれ也

花園法皇の
花園法の事
花園法皇の
廣澤にまうでゝ



天竜寺

面もるゝ義元國所と所ゝ弓民ゝ軍乃
はらんつまうもあるゝ浅と八ふ海乃はしゝ
はいけ乃かりうて八ふ乃法海ゝりゝゆ乃
ゝゝゝ義元國所乃ゝゝんきよはごいんゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

花乃面もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

野の文

野のうちにはいかなるものとかはしらず世とともにうつりかはりぬるものなれば。親王家もうせ給ひしかはりぬるものまへのうつりかはりたるさしてかはりもせずうつりゆくものなり

宗祇天皇の代にわかうまれ給ひ代々

野にうつりにしかはりまいりぱ

一仏とあらはれ給ふ一經とあらはれ給ふ一僧とあらはれ給ふ一寺とあらはれ給ふ

一神とあらはれ給ふ一宮とあらはれ給ふ一塔とあらはれ給ふ一墓とあらはれ給ふ

さて神うたのゆ下向の時分大機嫌にて天さかりて
うゝ神主にゝうゝとゝをめゝうありぞの時天
神主おのゝへうハぞゝび神へのぐりまゝますあて
いゝまごひあうゝ地ぞ手細の面とからゝをめゝた
家ゝうてうゝをたまゝゆゝありぞゝれゝとゝあゝ
ちゝやらんてぞりゝ代のゝふむけゝかゝいゝ
ぬまゝありぞ弟うゝ宝へゝてゝびゝうたゝゝをわゝ
まのいゝれとちゝのまあゝびゝ行そゝれゝりゝ
ゝうりゝすゝざゝれゝいゝむよゝゝそゝゝ又ゝ神ゝの伝ゝ
へのゆゝ下向と約束ゝうゝゝあゝりゝぞゝ奉ゝ生ゝ供ゝど
ゝていう先ゝゝゝ供ゝまわゝりゝぞゝゝたゝえて今ゝな

ゝさまゝひゝゝゝでゝゝのゝゝゝ

なをし免ゝ
くとをつくしこそ
野のをやつ
ものしかの伊勢福

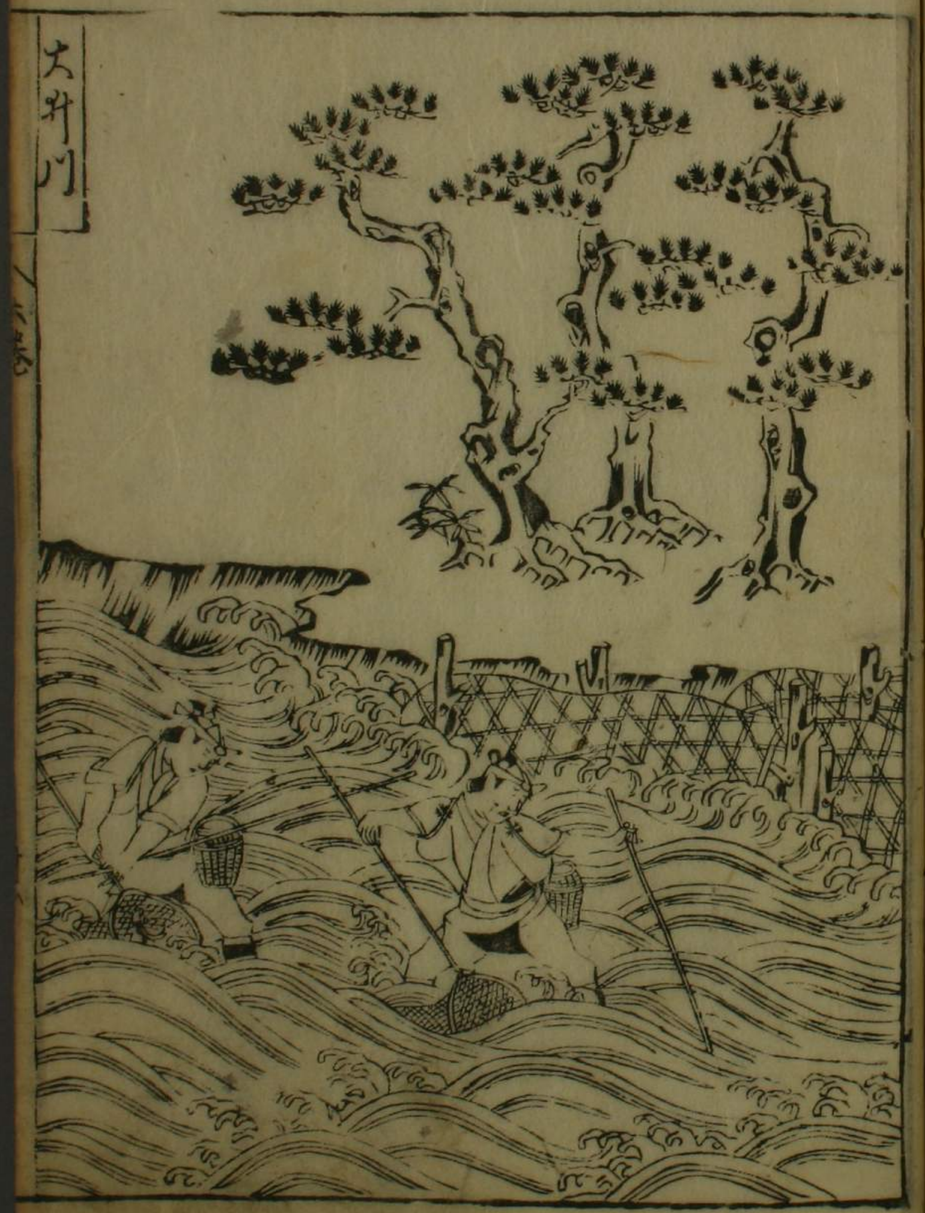
大井川

紀書の時分大井川より乗物の日
坂上是則

かけさへ今は昔のうらかなる波の花とも見やまがふん
業平朝臣

は振
大井川うき舟の明るを見よ小倉の山の雲の忠岑

於きさ
見くだせ雲ふかうて大井川おもかげ
同新上
大井川の川の水よりよこ海をみて
見てゆき



嵐山

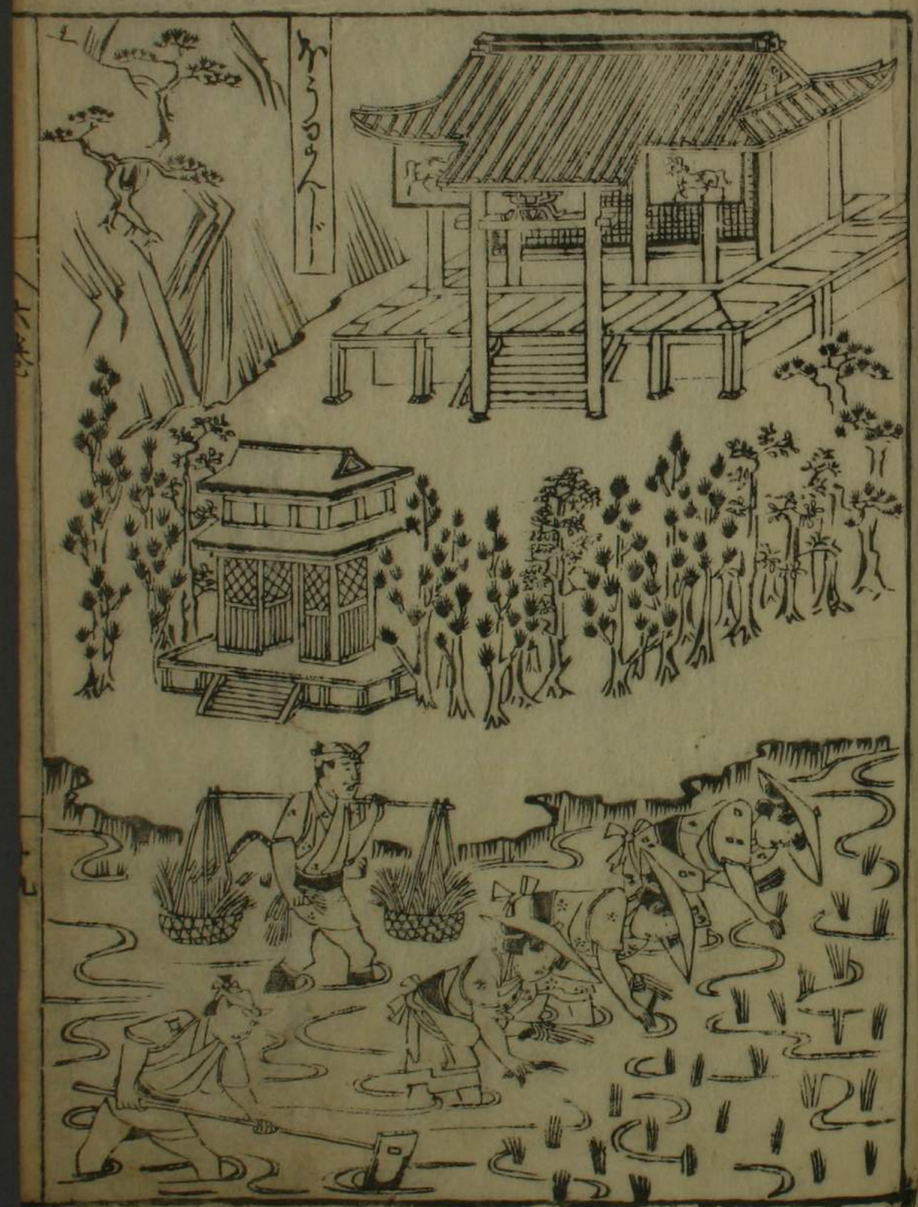
ふもとのいなり社のそばにうつくしき
うれいこそうろうてのぼりぜんぜ
へ京にあり　清水観音

大井川あらしにあらわるるとうろうさて
嵐の山のすそにちらばるこんれ
なかの山の仏洞そ　たとえ天皇
りうやしのもとにあらわるるあるしぬ
あるよ南しの船にて流れ流れを
嵐山てくもいはの嵐山の法皇すゆせたまひ仏ありて
うそ大井嵐山よりめしへい御部あり　やしてて機い

のうりけるにとりて　御堂の
まこと墨の絵いかの茶の分
とぶとりとしてわるねばいかの
くぶ風つまるとぬまでぬまと
ぬるまでみ　法師　こうげ
もこでみて　色うしひうきざ
猫とありりんをたりうこと
きこるのこくのぐけこと
うそよみかうんいまひ
ようそ式とき　秘みとそへあ

法師

ちりくざんかう四ん山ぢ法大師の門弟なる
泰の行基ありてありし昔仏教のうんつきる
ありし。伽藍ぶんぶんとうは百日ありしたまふ
ありしに明星ありつるあらんわりそぞろのらめ
そぞにうつごくざうがろの門ちとそうん
したまひぬすへてしきえさをたまりぬさと
いそうづわりがくわりめぞうりぞうこうぐ
さんの高僧とつくつぞうもの中そのの新像と
中まく発をりだるおひんぢんごぢんにおいそ。ちう
ぢう大師のくやうをせさをらまーたなる。



そのそ[illegible]とちくうこそまろりあまふ[illegible]
つぞうんだりりがくさがりきこそうぞうぐうん
うそれりりまうんるりり

曝(いぞまぐ)やらーあ[illegible]まろひーどよる

杉原

當社は二度の大賞えを奉乃都程なくて
うんのうちのそこのれのみこのはよ大色ものか
又は奥義川りかぐれしかの丹塗乃矢しゃ。色
杉原大の神也ぞれいさうよあうひうふりう
當社のまつりは四月上の申の日。貞観よりはじめ
うでまつり一条院寛仁元年十月十四日ふくで
失て約束あるもの有りそのあ
ちりやるる杉乃をゆのうけうれを
ふそちりものちあめけり源実朝
四月八日杉原乃宮没りたちて行うらん門行八郎を

しとゝ御のうけはけっぽりしもうしうしの乃
あきうれをあ
時乃志光乃あさつきうのくをと
きうれふ光のりせよや 杉原実朝
かわ南場

杉のぐやうに琴の色

まめのた

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちさいかづのとこきてぞ
さけさんとのたゆんあり
ゆいはせ
ぶかりすてたくさ
ちうり指大のあ〜そう
白骨一巻のうさうとのらゆひろいて
そそまつるありぞその雨とろうけて一巻こひ
人巻の矣とりあり

たちうそうじ
梅氏とりゝ〜こ

左秦

むかしこのくにに始皇帝といふ
豪傑ありしが唐土を治めしかば
万は開明に向ひ万の物
うるはしきんどやうあり
向ふにしてあてまつり又いとさうの
ようしてパンヘ向ふ物
とうとう免一度うしなひ
色八年のあいだ
くれをこの国に秦氏の人童
男風俗にうつれてそのあんのうよ

ちまれ毎いとうあげうの物たまひやう
にくをたくさんぶつぶつ勉とげ
ちのくにたてまつるゆへ
秦氏の秦の字をとりそへてこのこと
をとうとうきり秦といふ
りそれ人勇猛の
そうにこのこまらんやんへ
ちくるやとうとうあ
命門とあ
ものむ

十二神

神風とぞやうに。四方乃海波なく。国の戸さゝぬ御代なれど。心乃あるよ石組撰よりも見とかうまもも雅うらぐんしぶぐきりうもを庭石は一番まわ。京童の二番と。丁寺一番一組とたりして。新乃かりたどもわろ。ちうふりりんわるんのをハ金のゆと石寺巻もひゝくれ乃ひうわとをでわりてぐうりとうきとをうとまめんをんぐく祝り。名茶乃器ーをきもけ茶あわうゝのいひをとうとう緑。ゆうはむしくを

ゆうつまてさふ五月のとて今かさうせはまた
蓮うとむ出ちまれ〳〵ぷかさ〳〵てたう
ゆて人の五月ぬうくぶまさうけうのそを
なとと又名此あうを志〳〵波乃ぷさ名は豆田乃
やまぢこいそれあんまはしあうぐされとぷう
ーわげまうをハ天色うをくやをいてこつを
ぬまぢも谷の戸口けぐひとぷく〳〵まれう
ゆくりてくやさう〳〵乃ふの花りあそねど
世にゆくいうぷ〳〵うう友よえところうか
ぬ。されば弟がきれげけれ白を弟おうりを

あいなりてをれだをたるしあんどれ
うやうぷ〳〵うり船ぷやしあをとそくし
ぬまぷ今まうぐしはい初の梅と垂すうれう
ぶ解とふ物と繪をそをれるこく白きとのちよれだをを
乃人よたぐんためも儀の高初の数つくば島
の波たえばりてたせをくうぬ大志はいりげ山國
あうをぷひとりくさうれ夫詩六郎

明暦四戊戌年
七月吉日

さかうまち本町通高丸東入町
山崎六兵衛刊行